

黙示録3章14-22節 「主をお迎えできない心」

1A アーメンである方 14

2A 愛する者への叱責 15-19

1B 生ぬるさ 15-16

2B 豊かさ 17-18

3B 熱心な悔い改め 19

3A 共に食される方 20-21

4A 御霊のお告げ 22

本文

黙示録 3 章を開いてください。私たちは、主が語られた七つの教会に対するメッセージの最後、ラオディキアにある教会に対するみことばを読んでいます。(全文読む)

私は、これまで黙示録からのメッセージを聞いていて、ラオディキアの教会に対して、主が最も厳しく、状況は深刻だと教えられてきました。けれども、よく読むと、恵みと愛に満ちている主のことばであることが分かります。「3:19 愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。」とあるとおりです。実は私は、このことばでとても慰められました。信仰を持つ前に、親に叱られたことがなかったのです。悪いことをしても、叱らなかった父のこと、私は尊敬しています。けれども、それで何が良いことなのか、悪いことなのかが分からずに悩みました。しかし、真理というものがあると知り、自分の過ちも分かるようになる、悔い改めによって、神の愛に留まることができることを知りました。

ところで、ラオディキアの遺跡を三回、訪れましたが、そこで驚くのは教会の跡があることです。一つは、家の教会の跡です。ものすごい貴重な発見であり、まだローマがキリスト教を公認する前のことですから、良く残っていたなと思います。そして公認後の教会堂も、見事に、壮麗な形で残っているのです。吐き出すとまで言われたイエス様ですが、確かにラオディキアの教会の人たちは悔い改め、ここで主と食事を取ることができていたことが分かります。大きな問題を抱えていたラオディキアの教会ですが、神の恵みも受けたことが分かります。

1A アーメンである方 14

^{14a} また、ラオディキアにある教会の御使いに書き送れ。

ラオディキアの町は、フィラデルフィアから約 65 ㎞南東に位置する町です。三つの町が集まっているのですが、コロサイが東に、ヒエラポリスが北にあります。パウロがコロサイ人への手紙で、その隣接する町であったラオディキアの教会の人たちのことも念頭に入れて、書いていたことが分

かります。コロサイ書 2 章 1 節と、4 章 13-15 節です。コロサイの人たちに宛てた手紙なのですが、それをヒエラポリスとラオディキアにも回覧するように頼んでいます。このラオディキアに対する言葉にも、ヒエラポリスとコロサイの町が背景にあります。



ラオディキアは、ギリシアのセレウコス朝アンティオコス二世によって建てられて、妻の名ラオディケにちなんで名づけられました。そして、この町はフリュギアという、アジアの東にある地方にあります。フリュギアの南西部の重要なところにあります。150 キロ先のエペソからシリアへの幹線道路やその他の道路が交わる、交通の便が良いところがありました。交通の便利さから、ローマ時代は商業に恵まれ、また金融の中心地でした。産業は羊毛が盛んで、黒紫色の光沢のある柔らかい羊毛が取れました。遺跡を見ますと、豪華絢爛な寺院や劇場が立ち並んでいたことを伺えます。そして有名な医学校があり、そこで知られていたのは目薬でした。ですから、着る物も、目薬も、金もありますが、これらを後でイエス様がこのことを持って彼らを叱責されます。

また、多くのユダヤ人がここに移り住んでいて、社会の中で地位を得ていました。そこで、宗教の自由が他の地域に比べれば保障されていました。そしてこの町では迫害も少なかったようでもあります。そのことは、むしろ彼らに霊的な危機をもたらした一原因です。

ラオディキアの町の歴史の中で、有名なのは紀元後 60 年に起こった地震であります。それで町が破壊されたのですが、皇帝ティベリウスからの援助の申し出を受けなかったそうです。「私たちは自分たちで町を再建することができます。」と断っています。それだけ自分でやっていけるという自負、自存、自活の精神がありました。それがこの教会の最大の霊的危機です。「自分で何とかやっつけられる」であります。主は、幸いな人としてなんと言われましたか？「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。(マタイ 5:3)」自分のうちには、何もないと気づく時に、ただ主だけを求めます。そのように、主に向き合うことができない状態があります。自分で何とかできる、自分で何とかしようという自存の思い、これが、主がここで取り扱っている内容です。

^{14b}『アーメンである方、確かで真実な証人、神による創造の源である方がこう言われる—。

「アーメン」というのは、ヘブル語で「まことに、真実に」という意味です。「そのとおりです」という意味です。神ご自身が真実な方であることに使われます。イザヤ書 65 章 16 節に、「この地で祝福される者はまことの神によって祝福され、この地で誓う者はまことの神によって誓う。」とあります。この「まことの神」が、「アーメンにある神」となっています。そしてイエスが、「まことに、まことに、あなたがたに言います」と言われた時には、「アーメン、アーメン、わたしはあなたがたに言い

ます。」となっています。つまり、イエス様は「アーメンの神として語ります」と言われているわけです。そして、「**確かで真実な証人**」であります。これは 1 章 5 節にも出てきた名でした。つまり、ご自身をアーメンなる父なる神と一つであり、そしてそのことを確かに証した者ということでもあります。

なぜイエスが、ラオディキアに対してこのような形で現れたのでしょうか？彼らが神の真実に触れようとしないという問題があったからです。自分の考えていること、自分の感じていることを優先して、心の中で、神の真理を受け入れていないのです。真実また真理に触れるならば、そこで私たちの心は奮い立ち、燃やされ、清められ、応答が生まれるはずなのです。それが、心が鈍くなっており、真理を聞き入れていないという問題があるからです。

そして、「**神による創造の源**」であります。全ての被造物の源になっておられる方ということであり、創造主ご自身であることを示しています。ラオディキアの人たちも読むように勧められていたコロサイ人への手紙で、パウロはこう話しています。「1:16 **なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。**」どうして、こんなことを主は語っておられるのか？全ては、主から来ていることをラオディキアの人たちが拒んでしまったからです。すべての富や知恵、恵みというものは、神からの賜物であり、神とキリストこそが全ての源です。ところが、それらの豊かさに溺れて、その源から離れているからに他なりません。

2A 愛する者への叱責 15-19

1B 生ぬるさ 15-16

¹⁵わたしはあなたの行いを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。¹⁶ そのように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしは口からあなたを吐き出す。

彼らの行いについて、知っていると言われます。それは、良い行いを知っていて、励ますものではなく、彼らが自分自身を偽っていることについて、知っているということでした。「冷たくもなく、熱くもない」ということです。この表現には、ラオディキアの人たちが良く知っている事情があります。

この町は、ヒエラポリスとコロサイの間にあります。ヒエラポリスは、温泉で有名です。今も、温泉が流れています。パムッカレというトルコ語の名称で有名ですが、「綿の城」という意味です。温泉からの石灰が沈殿して、純白の段々畑のような景観になっています。まるで雪が降って、ゲレンデのようになっています。そして、コロサイには、カドムス山からの雪解け水がコロサイを流れています。

ラオディキアは、それぞれの熱水と、冷水を、水道管によって取り入れていました。水道管の遺跡がたくさん発掘されていますが、その中にカルシウム類が分厚く沈殿しているのが、ヒエラポリスからのものであることが分かります。土器で造られた水道管で、熱さを保つことも、冷たさを保つこともできたそうです。ところが、ラオディキアにやって来る途中で、生ぬるくなることもあったそうです。



当時の人々の考え方は次のようなものです。熱い水は、温泉ですから癒しをもたらします。この熱い水を飲むと、体にも良いと考えられていました。そして、冷たい水は、とってもさっぱりします。新鮮になります。しかし、そんな中でも、生ぬるい水は、唾棄すべきものでした。熱いのであれば癒し、冷たいのであればリフレッシュされますが、生ぬるいのは毒があるとみなしていたのです。だから、文字通り吐き出していたそうです。これが、主が語られていたことの背景です。熱ければ癒されるし、冷たければ新鮮になるし、けれども、あなたは吐き出されるような生ぬるさがある、と言われました。

これは、「アーメンである方、確かで真実な証人」として現れたイエス様に応答していない状態です。「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」として応答していない状態です。自分を真実である方によって見つめていない状態です。この方に会えば、熱い水のように癒されることができます。また、冷たい水のようにリフレッシュされる、心と思いが新たにされます。ところが、アーメンである方に向き合っていないので、吐き出されてしまうということです。

金持ちの青年のことを思い出してください。彼はとてもまじめでした。どうすれば、永遠のいのちを得ることができるのか？と、イエスに尋ねました。主は、十戒の戒めの後半部分を尋ねました。彼は少年のころから、すべてを守ってきましたと答えています。「ルカ 18:22-23 イエスはこれを見て、彼に言われた。「まだ一つ、あなたに欠けていることがあります。あなたが持っている物をすべて売り払い、貧しい人たちに分けてやりなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになりませう。そのうえで、わたしに従って来なさい。」彼はこれを見て、非常に悲しんだ。大変な金持ちだったからである。」ここで、主は彼の心に、富に頼っている姿を見ました。それで、欠けたところを示されたのです。ところが彼は、それを見つめることができなかつた。非常に悲しんでその場を離れたのです。主がアーメンであられるがゆえに、自分の心が明らかにされますが、それを自分でやっといけると思っていると、イエスから自分を遠ざけることになるのです。

2B 豊かさ 17-18

¹⁷ あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみ

じめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。

彼らは、アーメンである方を退けていただけでなく、「神による創造の源」も拒んでいました。ラオディキアの町において、地震が起こった後に、皇帝からの援助を断った話を思い出してください。「私たちだけでできますから、助けは要りません。」という態度です。この思いが教会の中にも入ってきていました。豊かで、足りないものがないので、祈りも必要としなくなります。主からの導き、御霊の助けは要らない、となります。

そこでイエス様は、はっきりと彼らの自己評価とご自身の評価を対比させています。真実な方が、彼らが自分で偽っている部分を明らかにされています。貧しくて、哀れで、盲目で、裸なのだと言われています。スミルナに対するイエス様の慰めの言葉と正反対です。「2:9a わたしは、あなたの苦難と貧しさを知っている。だが、あなたは富んでいるのだ。」と言われました。

¹⁸ わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買い、あなたの裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い、目が見えるようになるために目に塗る目薬を買いなさい。

自分たちが惨めで、哀れで、貧しく、盲目、裸だと悟ることができれば、主の恵みを初めて受け入れることができます。主が自分に必要であることを知るからです。まず、「豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買い」なさいと言われます。ラオディキアは、金融業が盛んでした。それで金貨も豊かにあったのですが、イエスご自身こそが、尊いお方です。「I ペテ 1:7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。」次に、「あなたの裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い」なさいと言われます。ライディキアは黒い羊毛の着物がブランド物の発祥地なのですが、キリストの血によって清められた白い衣を着なさいと勧められます。

そして、「目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。」と言われますが、目薬がこの町は有名でしたが、霊的に開かれるための目薬をわたしから買いなさいということです。パウロが祈りました。「エペソ 1:18-19 また、あなたがたの心の目が見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」

3B 熱心な悔い改め 19

¹⁹ わたしは愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。

冒頭でお話したように、主がここで叱り、懲らしめている理由は、「愛している」からです。「ヘブル 12:5-6 そして、あなたがたに向かって子どもたちに対するように語られた、この励ましのことばを忘れていません。「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。主に叱られて気落ちしてはならない。6 主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」

真実な愛は、真実を語ります。イエスが、十字架に向かうことを弟子たちに語られて、ペテロがそれを諷めた時に、「下がれ、サタン。(マタイ 16:23)」と言われたその言葉です。ペテロは良かれと思っていったのでしょ、しかし心は高ぶっていました。イエスは、「あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」と続けて言われました。このように、主の愛は、まっすぐな愛です。

そして、悔い改めます。ただ悔い改めるのではなく、「熱心になって」悔い改めます。ラオディキアの人たちは、ここが問題でした。心が伴っていないのです。自分に満足してしまっているの、何かをしても口先だけになってしまうのです。したがって、心を込めて、思い直しなさいと命じられています。その中で、だんだん自分の心の鈍くなっているものが剥がれていきます。一枚、一枚、かさぶたのようにになっている心が、一つ一つ示されたところを悔い改めていく中で、主の愛が見えてきます。それが次から出てくる、食事をするために戸を叩く、イエスのお姿です。

3A 共に食される方 20-21

1B 王との食事 20

²⁰ 見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

イエスが外から戸を叩いておられます。つまり、ラオディキアの教会においては既に主がおられなかった、ということです。自分で何とかなっていると考える人々には、万物の根源なるかた、真実な方がおられなかったのです。そして、「立ってたたいている」と言われていることに注意してください。イエスが見限って離れたのではなく、彼ら自身がイエスを締め出していました。外におられる主は、その中に入りたいと願っておられます。

そして、「だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら」と言われます。「だれでも」というのがすばらしいですね。どんなにイエスから離れても、誰でも主のもとに戻ることができるのです。そして、「わたしの声を聞いて」とあるように、主の声を聞いているのかどうか？が大事であります。私たちが、この方にひれ伏し、心を開くということが大事で、そうすれば御声が聞こえます。そして、「戸を開けるなら」であります。自分の主体的な行為が必要です。求めなさい、見付けなさい、捜しなさい、と主が言われました。

そして、「わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」と

言われます。当時は、共に食事をする事は、最も親密なこととされていました。同じ食べ物が互いに体内に入ります。それで、互いに一つになっているという事を象徴的に表していたのです。ですから、イエスが親密に交わってくださるという事を表しています。ダビデは、この主との交わりを、食卓に招かれた客として描いています。「詩篇 23:5 私の敵をよそにあなたは私の前に食卓を整え頭に香油を注いでくださいます。私の杯はあふれています。」

2B 王の恵み 21

²¹ 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

これは、御国における約束です。千年間のキリストの統治の時に、主が約束しておられたことです。「20:4 また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たちがいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。」ここの初めの部分、「また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たちがいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。」が、教会に与えられている約束であります。主が、死にまで忠実であったゆえに、神が甦らせてくださり、天に引き上げ、そしてご自分の右の座に着かせました。同じように、イエスが私たちをご自分の近くに引き寄せ、与えられている座に着かせてくださいます。そして、地上に主が戻られて神の国を立てられる時、私たちも主と共に統治するのです。

この大きな恵みについて、20 節に書かれている共に食事をするということに、実はつながっています。メフィボシェテのことを思い出してください。ヨナタンの息子です。ダビデがヨナタンと契約を結んでいました。彼に恵みを施し、その子孫を滅ぼすことがないようにという願いをダビデは聞きました。そこでメフィボシェテは、自分は犬のように卑しい者であるのに、ダビデと同じテーブルで食事をする事となったのです。ダビデの子であるキリストの食事にあずかるというのは、こういうことです。王の王であるイエス、この方の食事の席に着き、まるで王と同じようにみなされる、大きな恵みにあずかっています。

4A 御霊のお告げ 22

²² 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。』』

ラオディキアのみならず、全教会に御霊によって語ってくださったことです。私たちは、真実な方を見つめているでしょうか？ 向かい合っているでしょうか？ そして、自分が貧しいことを認めているでしょうか？ ただ、この方を受け入れて、そして食事をするような親しい交わりを持ち、そして、その恵みの中で、将来、この方にある座が与えられるのです。